

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572100636
法人名	医療法人社団 慶城会
事業所名	グループホーム 仰星台門川
所在地	東臼杵郡門川町大字河内字新堂2671-2 (電話)0982-50-9010
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 6月 5日

## 【情報提供票より】(21年 5月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	8 人

## (2)建物概要

建物構造	平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費3,000 円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	83.4 歳	最低	71 歳
		最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院 たかはし歯科 武富皮膚科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市街地から離れた山あいであり、自然豊かで季節の移り変わりが肌で感じられるような場所に立地している。すぐ隣には、地区の公民館や児童館があり、夕方になると子供たちの声が響き、のんびりとした環境である。「地域に根ざしたやさしいケア」を理念に、その人らしい暮らしが継続できること大切に支援している。5年目を迎え、ホームのありようやケアの質に対し、常に悩み試行錯誤しながら、更なる質の向上を目指しているホームである。母体病院との連携体制も充実しており、また、災害時の危機管理体制も整っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事を楽しむことの支援は、全職員で食卓を囲み、楽しく談笑されながら食事をし、利用者に応じて、食材の準備・台拭き・下膳などお願いし、改善への取り組みがうかがえる。鍵を掛けないケアの実践は、鍵を掛けないですむ方法はないかと常に考えながら全職員で取り組んでいるが、職員の手薄になる時間帯に、短時間のみ鍵をかけていることがある。前向きにあきらめずに取り組みを続ける予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価をしたことで、職員より「利用者にとって、どのようなケアが求められるのか、見直す機会になった」という意見が上がり、質の確保、向上につながるよう努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、区長、民生委員、包括支援センター、家族代表が参加して、3か月ごとに開催している。推進会議の前に、日頃の利用者の様子を見てもらい、ホームを知ってもらう機会を作っている。職員は、運営推進会議録に目を通し、必要に応じてカンファレンスしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日々の生活の中で、体調不良が生じた際には、電話連絡で状況をきめ細かに報告したり、利用者の状況を手紙や写真を添えて報告している。家族との関係を良くし、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は、地区の行事に参加し、住民と触れ合う機会もあり、毎年の夏祭りは楽しみにされている。小・中学との交流やボランティアの受け入れも行っている。区長や民生委員が、地区とのパイプ役になってもらっている。職員は、地域との交流を更に深めたいという思いがある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として昨年、「地域に根ざしたやさしいケア」を、職員全員で作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「地域に根ざしたやさしいケア」の理念を大切にし、日々のケアの実践に活かされるよう、毎月の職員会議で、意識付けしている。現状として、地域に根ざしたケアが充分取り組めていない事に日々悩み続けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、地区の行事に参加し、住民と触れ合う機会もあり、毎年の夏祭りは楽しみにされている。小・中学との交流やボランティアの受け入れも行っている。区長や民生委員が、地区とのパイプ役になってもらっている。		地域との交流を更に深めたいという思いが、ヒアリングより得られた。地域の主要な機関や関係者に、ホーム便りの発送を試みられたらいいかと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のミーティングで、自己評価や外部評価について話し合っている。自己評価をしたことで、職員より「利用者にとって、どのようなケアが求められるのか、見直す機会になった」という意見が上がり、質の確保、向上につながるよう努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長、民生委員、包括支援センター、家族代表が参加して、3か月ごとに開催している。推進会議の前に、日頃の利用者の様子を見てもらい、ホームを知ってもらう機会を作っている。職員は、運営推進会議録に目を通し、必要に応じてカンファレンスしている。		地域との交流の充実やホームを更に理解してもらおう意味でも、運営推進会議を2か月ごとにお願したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ターミナルケアや不明なことなど生じた場合は、行政と相談しあい連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送付する際に、利用者の状況を手紙や写真を添えて報告している。日々の生活の中で、体調不良が生じた際には、電話連絡で状況をきめ細かに報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との関係を良くし、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。敬老会や町主催の夏祭りに、家族の方が集まる機会はあるが、家族同士が集まり話し合える場面がない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入職・退職時に、利用者・家族の負担を軽減する為、職員を重複して勤務させ、すり替えの時間を作っている。利用者への対応に関しては、極力スキミングやコミュニケーションを図りダメージへの対応を行っている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数・職務内容に応じた研修を受け、働きながらトレーニングできる機会を作っている。法人外の研修は、出張扱いになっており、研修後の復命も徹底している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会や他事業所との交流を図っている。また、毎月開催される同法人のグループホームの会議でも、情報交換し質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族と面談を充分に行い、どのようなケアを望んでいるのかなどの要望を聞き、利用者や家族が安心してサービスを利用できるようにつなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、共に喜び支えあう関係を大切にし、信頼関係を築く努力をしている。一緒に過ごす時間や寄り添う時間を大切にし、馴染みの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、いつもと違う雰囲気を見逃さず、会話やしぐさを観察し、利用者本位のケアに繋げるように心がけている。思いの把握が困難な場合は、ミーティングで検討したり、家族からの情報をとり対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やその家族と電話や訪問時に話し合いを持ち、利用者のニーズを大切に介護計画を作成している。毎月のミーティングで利用者ごとに介護計画の検討を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現段階では、6か月に1回介護計画の見直しを行っている。毎月のモニタリングは、ミーティング時に行っているが、モニタリングの結果が、介護計画に反映できていない。	○	計画に沿ったケアの評価や見直した内容が職員間で共有され、記録に盛り込まれると、現状に即した介護計画が可能になっていくと思われる。介護計画は、3か月ごとの作成をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出、外泊の支援を行い、利用者が日常生活の中で刺激が得られるような機会を作っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が同法人の病院をかかりつけ医としている。ほぼ毎日のように、担当医が訪問され定期的な健康管理が出来ている。急変した際には、家族にも連絡を取り、ホームの職員が付き添い通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化や終末期に向けてのあり方に対して、全職員理解している。重度化や終末期の状況になった場合、家族・利用者・医師・職員で充分話し合い取り組んでいる。ここ1年の間に終末期ケアに関わった経験を基に、更にきめ細かなケアの必要性を全職員が感じている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけない言葉遣いや接遇に関しては、細心の配慮をしている。慣れすぎた言動や行動を慎みつつ、馴染みの関係の確立を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを崩すことなく、その方の体調や希望に沿いながら支援している。訪問時も、利用者に強制することなく、その方の興味が向くような支援をしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全職員で食卓を囲み、楽しく談笑されながら食事をしている。ホームの裏庭に菜園があり様々な野菜が作られ食卓に彩を加えている。また、旬な山菜も取り入れ、話題もはずむ楽しい食事になっている。利用者に応じて、食材の準備・台拭き・下膳などお願いしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴が出来る体制をとっており、利用者の希望に合わせた入浴支援を行っている。一人ひとりの入浴の支援を行い、車椅子利用の方は、特に安全な入浴を心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力や興味に応じた支援を行っている。野菜の収穫や掃除、洗濯物たたみ、山菜の下ごしらえ、レクレーション、散歩やドライブと晩酌と楽しみごとや気晴らしの支援が出来ている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中庭での散歩や毎月の買い物、2か月ごとのドライブと外出する機会がある。帰宅願望の利用者に対しては、希望に応じ近隣の散歩やドライブの支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	この1年間、鍵を掛けないですむ方法はないかと常に考えながら全職員で取り組んでいるが、帰宅願望が強い利用者への対応に不安があり、職員の手薄になる時間帯に、短時間のみ鍵をかけていることはある。職員は、鍵を掛けることでの弊害は充分理解している。	○	この1年間の取り組みは以前より前進しており、今後も、鍵を掛けないですむケアの体制を検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年に2回実施し、消防署、地区の消防団、区長、民生委員の参加も得て訓練している。利用者ごとに、オムツや服、水などが入った避難袋が準備されている。また、ホーム内の壁に、ヘルメットや頭部につける懐中電灯も設置され、危機管理の高さが伺えた。災害時に備えて、備蓄も準備され、定期的に点検されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量に関しても把握し、栄養士からの、献立のチェックも受けており、利用者の状態の変化に対応できるようにしている。晩酌の好きな利用者に関しては、楽しむ機会がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央に利用者が集まる共同空間がある。テレビやソファが置かれ、各々の気に入った場所でくつろげる配慮がなされている。リビングの窓が広くとってあり、山や空が手にとるように見え、季節の移ろいも感じられる配慮がなされてある。空気のとどみもなく、採光も適切であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、利用者ご自身の若いときの写真が掛けてあったり、位牌やぬいぐるみ等の持込もあり工夫している。		